

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25285160

研究課題名(和文)「都心回帰」時代の大都市都心における地域コミュニティの限界化と再生に関する研究

研究課題名(英文)The Study of Local Community in the Era of Urban Core Revival

研究代表者

鯉坂 学 (Ajisaka, Manabu)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：60135960

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究機関の3年間(平成25年度～平成27年度)に研究代表者を含む研究分担者および研究協力者による学会報告は8回行われ、また学会誌等へ掲載された論文は13本に及んでいる。また、研究メンバーによる情報交換や議論のための研究会を14回開催した。調査研究として東京都、名古屋市、京都市、大阪市の各都心区でのマンション住民や地域住民を対象としたアンケート調査を8回実施した。

都心地域においてはマンション住民の増加により、専門職層や富裕層の比率が高まり、地域コミュニティの近隣関係は弱くなっていること、当該都市により、その関係性には差異があることが判明した。

研究成果の概要(英文)：During three years of the research, our research group presented the reports at academic meetings eight times and thirteen thesis were published on academic magazines. And fourteen meetings were held for exchanges of information and discussions among research members. Also eight questionnaire surveys were conducted at urban areas in big cities such as Tokyo, Nagoya, Kyoto, and Osaka.

Through the research, we found the ratio of professionals and wealth increased due to increasing residents of condominiums and that relationship among local residents weakened. However, we found those relations were different depending on cities.

研究分野：地域社会学

キーワード：都心回帰 地域コミュニティ 東京都中央区 名古屋市中区 京都市中京区 大阪市中央区

1. 研究開始当初の背景

日本の大都市圏において数十年間続いてきた人口の「郊外化」が止まり「都心回帰」が進み、都心の社会構造と空間構造に大きな変容が起きている。都心では「郊外化」により人口の減少、自営業者層の激減、高齢化などにより地域コミュニティの弱体化が進行していたが、そこに大量の新住民が流入することによって地域コミュニティの衰退は限界に達しつつある。かつて60年代のコミュニティの「喪失」は、「コミュニティ政策」により、何とか「回復した」かに見えたが、21世紀の都心コミュニティは大きな「限界」化に直面していた。

2. 研究の目的

本研究では、それまで大阪市と札幌市、福岡市を対象にして調査研究してきた大都市の都心コミュニティの「限界」化についての知見を、東京都をはじめとする日本の大都市に広げ、社会空間構造の変容と地域コミュニティの変化について明らかにし、都心地域の再生の方途について提起することを目的とした。

3. 研究の方法

東京23区、名古屋市、京都市の都心区を対象とし、これらの都市ごとに国勢調査・事業所調査などの行政資料による分析、自治体の担当者へのインタビュー、町内会・自治会や商店会、NPOなどの役員へのインタビュー調査、都心の大規模マンション住民だけでなく地域に住む全住民を対象とした都心住民(約4500人)に対するアンケート調査、流入外国人や都市貧困層へのインタビュー調査を行った。特にアンケート調査で得られた大量データの比較分析をおこなった。

4. 研究成果

(1)平成25年度に、東京都中央区の区役所へのインタビュー調査を行った。またマンション住民約1000名へ質問紙調査を行い30%の回答を得た。この研究成果は代表者を含む6名のメンバーによる「『都心回帰』時代の東京都心部のマンション住民と地域生活—東京都中央区での調査を通じて」と題する報告論文として平成26年度に発刊され、研究者から評価を得るとともに地域住民にもその成果を送付し公表した。また、代表者による「『都心回帰』による大都市の地域社会構造の変動—大阪市および東京都のアップパー・ミドル層に注目して」と題する論文として平成26年度に日本都市社会学会年報で公表され評価を得た。

(2)平成25年度に、名古屋市中区の区役所および研究者、地域住民組織役員へのインタビュー調査を行った。さらにマンション住民約1000名へ質問紙調査を行い38%

の回答を得た。この研究成果は代表者を含む5名のメンバーによる「『都心回帰』時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状—マンション住民を焦点として」と題する報告論文として平成27年度に発刊され評価を得るとともに、当該地域の住民に送付し公表した。

(3)平成25年度に、大阪市の321の商店街を対象とした質問紙調査を行い36.2%の回答を得た。この研究成果はメンバーによる「都心回帰と大阪市の商店街」と題する報告論文として平成27年度に発刊され評価を得た。

(4)平成26年度に、京都市中京区のマンション住民約1000名に質問紙調査を行い38.2%の回答を得た。さらに大阪府中央区のマンション住民約1000名に質問紙調査を行い32.6%の回答を得た。この研究成果は代表者を含む6名のメンバーによって平成28年度に論文を発刊予定である。

(5)平成26年度に、京都市中京区のコミュニティ住民約1000名に質問紙調査を行い35.9%の回答を得た。この研究成果は代表者による「『都心回帰』時代の京都市中京区の学区コミュニティ—明倫学区と城巽学区の調査より」として、またメンバーによる「都心住民の近所付き合いと住民自治—京都コミュニティ調査を事例として」および「都心住民の生活実態と社会意識についての一考察—京都市中京区明倫学区と城巽学区を事例として」と題する報告論文として平成27年度にそれぞれ発刊された。当該地域の住民にも送付し公表した。またこの成果は平成28年度の地域社会学会で報告する予定である。

(6)平成27年度に、大阪府中央区のコミュニティ住民約1600名に質問紙調査を行い29.2%の回答を得た。さらに、東京都中央区のコミュニティ住民約1000名に質問紙調査を行い30.5%の回答を得た。これらの研究成果は平成28年度～30年度の科学研究費[基盤研究B](代表者は同じ)により継続調査研究が可能となったため、代表者を含むメンバーによって分析の上、論文化し、当該地域住民へも送付し公表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13件)

鯨坂学、「都心回帰」時代の京都市中京区の学区コミュニティ—明倫学区と城巽学区の調査より、社会科学、査読有、第45巻

田中志敬、都心住民の近所付き合いと住民自治 京都コミュニティ調査を事例として、社会科学、査読有、第45巻 第4号、2016、243-70

加藤泰子、都心住民の生活実態と社会意識についての一考察 京都市中京区明倫学区と城巽学区を事例として、社会科学、査読有、第45巻 第4号、2016、189-217

杉本久未子、都心回帰と大阪市の商店街、Human Sciences 大阪人間科学大学紀要、査読無、第15号 2016

浅野慎一、東日本大震災が突きつける問いを受けて:国土のグランドデザインと「生活圏としての地域社会」, 地域社会学会年報27集、査読有、2015、45-59

鯉坂学・丸山真央・上野淳子・加藤泰子・堤圭史郎「都心回帰」時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状—マンション住民を焦点として、評論・社会科学、査読無、第113号、2015、1-106

八木寛之、「都心回帰」時代における大都市の人口移動 国勢調査データによる5都市の比較分析、都市文化研究、査読有、Vol.17、2015、68-80

丸山真央、大都市問題の変容—「都心問題」を中心に、査読無、都市問題、第106巻11号、2015、52-61

鯉坂学、「都心回帰」による大都市都心の地域社会構造の変動 大阪市および東京都のアップパー・ミドル層に注目して、査読有、日本都市社会学会年報第33号、2015、

鯉坂学、上野淳子、丸山真央、加藤泰子、堤圭史郎、徳田剛、「都心回帰」時代の東京都心部のマンション住民と地域生活—東京都中央区での調査を通じて、評論・社会科学、査読無、第111号、2014、1-112

丸山真央、岡本洋一、「都心回帰」下の大阪市の都心地区における地域生活と住民意識—北区済美地区での調査を通じて、評論・社会科学、査読無、第110号、2014、21-67

鯉坂学、上野淳子、堤圭史郎、丸山真央、「都心回帰」時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民—札幌市、福岡市、名古屋市の比較(上) 評論・社会科学、査読無、第105号、2013、1-78

鯉坂学、上野淳子、堤圭史郎、丸山真央、「都心回帰」時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民—札幌市、福岡市、名古屋市の比較(下) 評論・社会科学、査読無、第106号、2013、1-69

〔学会発表〕(計 8件)

丸山真央、「都心回帰」時代の大阪市中心部の地域コミュニティと住民生活、大阪市立大学大学院創造都市研究科ワークショップ、大阪市立大学梅田サテライト、2015年12月

丸山真央、「世界都市」から「スケールの政治経済学」へ—ネオリベラリズム以後の都市リストラクチャリングの社会学の課題、人文地理学会政治地理研究部会、第14回研究会、ウインクあいち、2015年5月

鯉坂学「都心回帰」による大都市都心の地域社会構造の変動 東京都中央区および大阪市北区の調査を中心に、日本都市社

会学会第 32 回大会シンポジウム 専修
大学、2014 年 9 月

丸山真央、「都心回帰」時代の都市再編と
地域コミュニティ(2)——大阪市の都心地
区におけるコミュニティ参加と住民意識、
地域社会学会第 39 回大会、早稲田大学、
2014 年 5 月

上野淳子、「都心回帰」時代の都市再編と
地域コミュニティ(1)——不動産市場と都心
マンション住民の都市間比較、地域社会学
会第 39 回大会、早稲田大学、2014 年 5 月

丸山真央、「都心回帰」下の大阪市都心部
における有権者の政治的態度と意識——「橋
下維新」の社会的担い手をめぐって、日本
社会学会第 87 回大会、神戸大学、2014 年
11 月

上野淳子、「都心回帰」時代の地域コミ
ュニティの動態 札幌市におけるマンシ
ョン住民と行政の対応、地域社会学会第 38
回大会、立命館大学、2013 年 5 月

徳田剛、「都心回帰」時代のコミュニテ
ィの動態 大阪市におけるマンション住
民、地域社会学会第 38 回大会 立命館大学、
2013 年 5 月

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鯉坂 学(AJISAKA, Manabu)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：60135960

(2) 研究分担者

浅野 慎一(ASANO, Shinichi)
神戸大学・人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：40202593

杉本 久未子(SUGIMOTO, Kumiko)
大阪人間科学大学・人間科学部・教授
研究者番号：60340882

西村 雄郎(NISHIMURA, Takeo)
広島大学・総合科学研究科・教授
研究者番号：50164588

丸山 真央(MARUYAMA, Masao)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：80551374

上野 淳子(UENO, Junko)
桃山学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：30582788

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

加藤 泰子(KATO, Yasuko)

齊藤 麻人(SAITO, Asato)

佐藤 洋子(SATO, Yoko)

柴田 和子(SIBATA, Kazuko)

中野 佑一(NAKANO, Yuichi)

二階堂 裕子(NIKAIIDO, Yuko)

浜島 幸司(HAMAJIMA, Koji)

松川 杏寧(MATSUKAWA, Anna)

八木 寛之(YAGI, Hiroyuki)

吉田 愛梨(YOSHIDA Eri)

陸 麗君(LU, Lijun)